

1月号

ハニ養だより



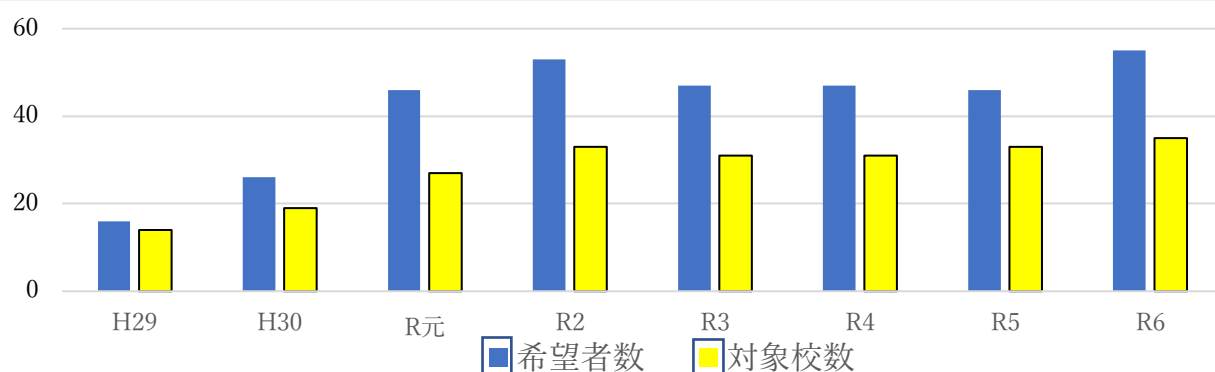
青森県立八戸第二養護学校
令和6年12月20日

居住地校交流

地域で学び、地域で育つ教育を

「居住地校交流」は、交流及び共同学習の一つの形態で、特別支援学校に通う幼児児童生徒が居住する地域の小・中学校等の児童生徒と一緒に交流や学習活動を行うことです。共に学び、相互理解を深めることを目的とし、また、特別支援学校に通う幼児児童生徒にとっては、地域とのつながりを持ち、地域社会の中で積極的に活動していく素地作りも目的としています。

本校は居住地校交流に取り組んで8年目となりました。これまでの希望者数、対象校は以下のグラフに示すとおりです。コロナ禍により令和3～5年は少なくなっていますが、今年度は希望者数55名（小学部40名、中学部15名）、対象校数35校（小学校24校、中学校11校）と増加傾向にあります。地域の小・中学校に副次的な学籍（青森県では「交流籍」といいます）をおき、同年代の友達と関わり合いながら学習を進めています。



感謝と御礼

令和6年も残りわずか。本校も無事に1年を締めくくることができました。今年を振り返ると、感染症対策をしながらも、制限なしの教育活動ができました。全校児童生徒での給食、一堂に会した5年ぶりの学習発表会などなど。児童生徒一人ひとりの個性を尊重し、可能性を最大限に引き出すための指導・支援ができたと思います。これまで学校への御理解、御協力ありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。（校長 小笠原 雅和）